

第12講：学芸員と専門職員

1. 博物館法に見る学芸員

1) 博物館の業務と学芸員の仕事

博物館法では第4条で職員について記している。第4講で学んだが再掲する。

(館長、学芸員その他の職員) 第四条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

【解説】博物館の職員として館長、学芸員に言及し、専門職員は学芸員と明記する。学芸員の仕事は、資料の収集、保管、展示、調査研究、その他の関連事業についての専門的事項である。

2) 博物館の機能

学芸員の仕事、つまり博物館の専門的業務は第3条一に資料の収集、保管、展示の3つ明記され、次に四は教育と読み取れ、五で調査研究が現れる。ここから博物館の機能は、収集、保管、展示、教育、調査研究の5つを示すことができる。表現によっては展示と教育をまとめて4つ、さらに収集と保管をまとめ3つとする場合もある。学芸員の仕事はこれらの業務のなかの専門的事項である。

3) 専門的事項とは何か

「専門的事項」はさまざまに解釈が可能で、現実には実際に配置された職員の状況によって学芸員の仕事が定まってくる。たとえば展示会のチラシの作成は専門的事項だろうか。チラシの解説文は専門的事項である。デザインやレイアウトは。これは専門外だろう。では写真はどうか。資料には正しい向き、示すべき向きが存在するため写真が正しい向きや組み合わせで掲載されているかは学芸員の仕事となる。写真の向きはデザインに影響するので、学芸員が関わる範囲は広範になりがちで、管理部門の職員（事務職員）に博物館や資料への知識に欠けるほど、関わる仕事内容が増加していく。

学芸員が専門職員としての能力を発揮するには事務職員の専門性や知識技能が必要なのである。

4) 学芸員の法的位置付け

学芸員は博物館法に明記された博物館の専門職員である。博物館法には記載はないが、社会教育法には博物館は社会教育のための機関と明記されており（第9条）、学芸員は社会教育機関の職員といえる。ここでいう博物館とは登録博物館に限られる。それ以外の博物館に勤める学芸員に法的な意味はない。もちろん実質的な意味はもちろんある。

5) 学芸員は1つ

博物館法には学芸員の職階の定めはない。博物館法には学芸員補という職名が見えるが資格は不要であり学芸の仕事をする補佐的職員という意味である。上級学芸員や准学芸員は存在しない。地質学芸員や美術学芸員といった分野専門の学芸員も制度上は存在しない。主任学芸員、学芸課長や学芸部長、といういは所属組織のなかの職階であり独自規則＝ローカルルールである。

2. 学芸員の役割

1) 学芸員は研究者である

博物館法第3条には博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究」を示している。第4条の職員の構成を見ると、担当者が学芸員であることは明白である。よって学芸員には調査研究の能力が必要とされる。学芸員は研究者であることが前提で、研究者が社会教育機関の事業をおこなうための技能や知識を習得した証が学芸員資格と考えればよい。「博物館資料」については第10講のテキストを参照のこと。

2) 資料に専念する考えもある

ところが現実の博物館の学芸員のなかには学芸員は研究者ではない、少なくとも研究を業務の主体とすべきではないという考えを持つ人もいる。それよりも預かっている資料の整理や目録の発行などに専念すべきという考えである。この場合、研究は資料の整理から生まれるものに限定される。コレクションによっては、資料の整理や修復、解説作成のための調査が研究となるだろう。たとえば著名作家の作品をコレクションにする美術館、古代文明の遺跡からの出土品を資料とする博物館などである。

また、公立博物館の運営を市町村から委託された運営会社が研究を出来なくしている場合も現実には存在する。展示室での資料解説や教育事業に専念せよという業務命令であり、それが市町村からの委託内容として定められていることもあるようだ。

3) 動物園水族館、植物園の学芸員

動物園や水族館、昆虫園、植物園、それらの複合施設をまとめて生体展示施設と呼んでおく。これらの施設の資料とはまずは飼育栽培している生物である。死後は標本が資料となる。日本の生体展示施設の学芸員の大半は飼育業務を兼務しており、学芸員としての仕事は教育事業が主ということも見られる。飼育を担当しない学芸員も稀ながら存在し、仕事内容は教育事業と死体の標本化、標本の管理となっている。

水族館は会社経営が多く、飼育職員は飼育員として募集し、応募者もそれを目指す若者が大半である。ところが動物園は状況が異なる。動物園の多くは公立であり職員は公務員のことが多い（民間に委託の場合もある）。そして飼育員は飼育員として募集はなく、清掃センターや終末処理場などの現業職員が異動で回ってくるという場合が現在も見られる。そして現業職は高卒者が対象で大卒者はなれないということもあった。専門職として必ず置かれているのは獣医であった。

最近では状況が異なり、公立動物園でも大卒や専門学校卒業の飼育職員を募集することが増え、学芸員も重視されるようになった。とくに地方の小規模施設では学芸員を強く求めている。

4) 隠れた役割

大学の大多数は都市部に存在し、農大オホーツクキャンパスは国内屈指の遠隔地の大学だが、博物館はさらに辺地にも存在する。自然史系や考古学、歴史学では地域の事例が研究対象であるためだ。そして、地方博物館が研究コミュニティの出先機関となっている。住民から見れば博物館が研究者の世界への窓口になる。学芸員は研究者からすれば地元への、地元からすれば研究世界への窓口や導き役となっている。

また地方によっては学芸員が地域における唯一の修士や博士であり、個人的な能力や趣味を含めて博物館事業として還元することもある。たとえば学芸員がクラシック音楽に詳しく、地域で初めての室内楽の演奏会を博物館事業として実施したこともある。学芸員が専門分野に応じて地域サークルや趣味の会をつくり、あるいは住民が自発的に組織し、自主活動や学芸活動の補助や支援をしている場合もある。

学芸員は地域の顔となり、博物館の枠を超えた活躍ができる仕事でもある。

3. 職員体制のモデル

1) 1部門制（ひとり体制）

総務部門 学芸員：総務、経理、施設管理、広報、収集、保存、展示、普及（教育）、研究
 まったくの職員1人のみという場合は稀であるが、学芸員1人、補助員1人という組み合わせは見られる。

2) 2部門制

管理部門 事務員：総務、経理、施設管理、広報

学芸部門 学芸員：収集、保存、展示、普及（教育）、研究

市町村館や小規模県立館に一般的。教育事業は学芸員の仕事であるが、展示解説は管理部門に所属する解説員が担当することもある、管理部門の職員が個性を發揮して手伝う場合がある。

3) 3部門制

管理部門 事務員：総務、経理、施設管理

事業部門 エドューケーター、コミュニケーター：展示、普及（教育）、広報

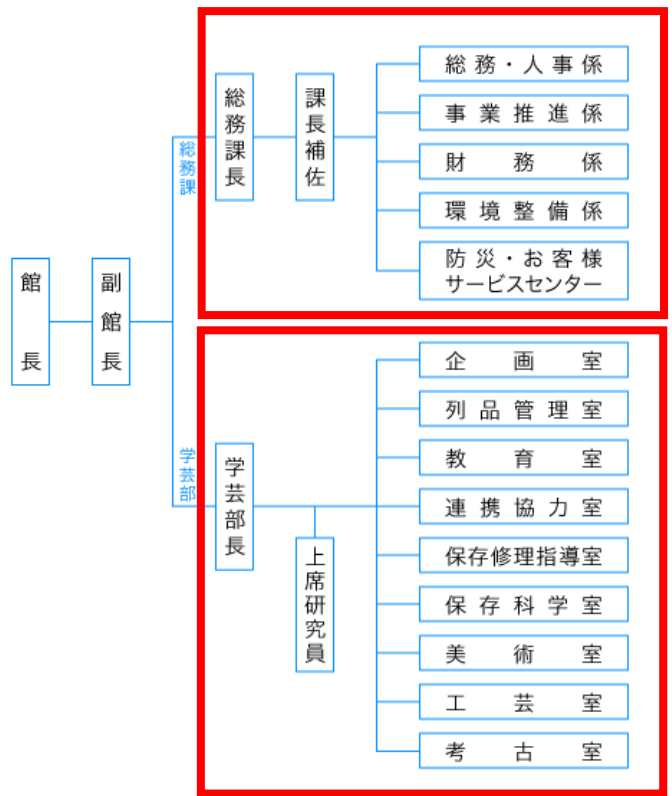
学芸（研究）部門 学芸員：収集、保存、研究

指定都市や県立館では3部門制が増加している。展示や教育活動が学芸部門から独立している。学芸員はもっぱら資料の管理と研究。国立科学博物館（科博）も3部門制といえる。

管理部門

組織図(R6.4.1)

館長	
理事・副館長	
監事	
研究調整役・副館長	
経営管理部 管理部門（上野） 事務施設管理	総務課
	財務課
	研究推進・管理課
	施設整備主幹
	情報化推進室
事業推進部 事業部門（上野） 展示教育事業	常設展示・博物館サービス課
	企画展示課
	学習課
	広報・運営戦略課
科学系博物館イノベーションセンター	マーケティング・コンテンツグループ
	展示開発・博物館連携グループ
動物研究部	脊椎動物研究グループ
	海生無脊椎動物研究グループ
	陸生無脊椎動物研究グループ
植物研究部 研究部門（筑波）	陸上植物研究グループ
	菌類・藻類研究グループ
	多様性解析・保全グループ
地学研究部 研究官はここ	鉱物科学研究グループ
	生命進化史研究グループ
	環境変動史研究グループ
人類研究部	人類史研究グループ
理工学研究部	科学技術史グループ
理化学グループ	理化学グループ
筑波実験植物園	
昭和記念筑波研究資料館	
附属自然教育園	都市緑地生態研究チーム
産業技術史資料情報センター	
標本資料センター	
分子生物多様性研究資料センター	
監査室	



学芸部門

博物館の組織図

左：国立科学博物館（科博）2024年

右：京都国立博物館（京博）2020年

科博は実質上3部門制、京博は2部門制である
 京博の新しい組織図は収まりが悪いので古いものを掲載

4. 学芸員の守備範囲

1) 学芸員ひとりの場合

学芸員A 森羅万象・宇宙全体、サービスエリア (=地域) の歴史や事象全体、すべての教育事業

2) 学芸員2人の場合

ケース1 : 学芸員A 理系 : 物理・化学・生物・地学のすべて、その分野の教育事業

学芸員B 文系 : 文化歴史全体、その分野の教育事業

ケース2 : 学芸員A 研究 : 専門分野の追求

学芸員B 教育 : 地域向け事業

3) 学芸員3人以上 : 経験や見聞では、おおむね学芸員が3人以上で個性的な調査研究活動が実現する

ケース1 : 学芸員A 理系1 : 無機物、教育事業のすべて かつての知床博物館の状況

学芸員B 理系2 : 有機物、館外活動 (専門委員、寄稿、マスコミ出演)

学芸員C 文系 : 文化歴史全体、館の将来計画・経営

ケース2 : 学芸員A 生物系1 : 植物、ホタル かつての美幌博物館の状況

生物系2 : 魚類、ザリガニ

生物系3 : 昆虫、植物

5. アメリカの大規模博物館の状況

1) 大規模博物館では研究と資料管理は分離

大規模館の例としてアメリカ自然史博物館 American Museum of Natural History (AMNH) (ニューヨーク) の哺乳類研究部を見てみたい。日本とは仕組みが異なるので理解が難しいかも知れないが実際を知りたい。

Mammalogy Staff <https://www.amnh.org/research/vertebrate-zoology/mammalogy/staff>

上部の囲みはCurators=研究者とCollection Staff=資料担当そしてAdministrative=管理者があり、おそらくここまでが正規職員。研究担当は、curator-in-charge (学芸主幹) 1, curator (学芸員) 2の3名、資料担当者は掲載順に museum specialist (博物館専門員) 1, collection manager (資料管理主任) 1, senior museum specialist (上級博物館専門員) 2の計4名である。資料担当の責任者は collection managerで。「senior 何とか」は退職後の再任用かも知れない。枠外の senior research scientists (上級研究者) 1 は、非正規職員か博物館とは別予算での雇用かも知れない。その下は、former staff (前職者) 4とemeritus curators (名誉学芸員) 1、そして多数の research associates (研究員) で金銭の関係は無さそうだ。

スミソニアンの研究部門の職員は、管理 Administrative、資料 Collection、研究 Researchに分かれている。学芸員 curator は研究分野の長で分野にひとり。分野が細分化すればそれだけ学芸員も増える [後述]。

日本では見られない専門職員の名称として「curator of collections」がある。資料担当学芸員。collection manager が配置されない小規模館には相応しい職名という気もする [後述]。

2) 多様な専門職員

AMNHの研究職員録 Scientific Staff Directory <https://www.amnh.org/research/staff-directory> には連携研究者を含め758名が搭載されている。これは昨年の996名に比べ約240人の減少と驚きの数字だ。職種は昨年は約40種が数えられた [後述]。さまざまな分野や技能、役割の専門性をアピールして獲得して得た専門職員の地位と言えるだろう。また、博物館によっては教育専門職員や俳優がいたり、ボランティアが大きな役割を果たしていることもある。

6. 学芸員（博物館専門職員）の実例

1) 国立科学博物館

田島木綿子（鯨類） https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/my_research/zoology/tajima/index.html

濱尾章二（鳥類） <https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/researcher.php?d=hamao>

中江雅典（魚類） <https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/researcher.php?d=nakae>

2) 県立館

鈴木まほろ（植物、岩手県立博物館） <https://sites.google.com/site/suzukimahoro>

亀田佳代子（鳥類、滋賀県立琵琶湖博物館・館長） https://www.biawahaku.jp/curator/2024/04/post_27.html

館長就任あいさつ <https://www.instagram.com/biawahaku/reel/C5NvbjarNZ/?locale=en-GB>

三橋弘宗（生態、兵庫県立人と自然の博物館） <https://www.hitohaku.jp/researchers/mitsuhashi.html>

3) 市町村立館

町田善康（美幌博物館）本課程履修者 魚道づくり活動 https://www.daiwa.com/jp/fishing/be_earth/genryu/content2/1255648_11186.html

豊橋市自然史博物館 学芸スタッフの紹介 <https://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/09staff/gakugeiin.html>

波戸岡清峰（元大阪市立自然史博物館）学芸員等在外派遣研修 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/hatooka/report.html>

4) 大学博物館

遠藤秀紀（遺体科学、東京大学総合研究博物館） <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/endo/>

大原昌宏（昆虫、北海道大学総合博物館） <http://www.museum.hokudai.ac.jp/ohara/>

5) 動物園

朝倉卓也（円山動物園）「札幌人図鑑」での紹介、動画あり <http://sapporojinzukan.sapolog.com/e370499.html>

村田浩一（よこはま動物園ズーラシア園長）雑誌ブルータス記事 https://brutus.jp/yokohama_zoorasia_kouichimurata/

6) 水族館

水族館の飼育員 学芸員 村井理沙さん | EduTownあしたね <https://ashitane.edutown.jp/job/workers/村井理沙/>

新江ノ島水族館学芸員 小谷野有加 | 多様化する水族館のしごと | 海洋政策研究所 - 笹川平和財団

https://www.spf.org/opri/newsletter/325_3.html

鹿児島市水族館公社学芸員 柏木由香利さん | 鹿児島の人と仕事をつなぐ「しごとびと」

https://shigotobito.com/no11_p2/

7. 学芸員が書いた本

堀家邦男（1975）水族館の魚達 泰流社

親子二代が日本の水族館の歴史そのものという人生。各地の水族館誕生の話

川田健（1988）アメリカの動物園で暮らしています どうぶつ社

1969年に渡米、動物園一筋の体験談。生体飼育施設での学芸員を考えた内容も

浜口哲一（2000）放課後博物館へようこそ 地人書館

出所不明の口伝や伝世品となりがちな現役学芸員の仕事や新作概念をまとめています

三木美裕（2004）キュレーターからの手紙 アム・プロモーション

北米で活躍する日本人学芸員の作品で、生々しくはありませんが、参考事例がたくさん

太陽レクチャー・ブック編集部（2008）ミュージアムの仕事 平凡社

美術館学芸員のあっと驚く半生記と仕事術がなまなましい

○補足

アメリカ自然史博物館の研究職員（ニューヨーク）【2024年の状況】

AMNHの研究職員録 Scientific Staff Directory を見ると <https://www.amnh.org/research/staff-directory>
検索窓の下に「996 result(s) found」と連携研究者を含め996名が搭載されているようだ。四角い枠の中程に「Staff Type」とあり「All Types」をクリックすると別窓が開く。ここには博物館の44種の職名がABC准に列記されている。一部に collection manager ではなく catalogingや collection management といった仕事内容だったり、所属部署の場合もあるが、多様な専門職が存在することは納得できる。列記すると次のとおり。
Acquisitions, Administrative, Artists, Associates, Cataloging, Chief Conservation scientists, Collaborators, Collection Management, Collections Staff, Conservation, Coordinators, Cultural Resources Office, Curator-in-Charge, Curators, Emeritus Curators, Digital Services, Director, Director Emeritus, Division Chair, Emeritus Faculty, Faculty, Field Associates, Former Staff, Graduate Students, Great Gull Island, Information Technology, Laboratory Management, Museum Specialists, Nels Nelson North American Archaeology Laboratory, Postdoctoral Fellows, Preparators, Program Manager, Research Assistants, Research Associates, Research Scientists, Research Services, Resident Research Associates, Special Collections, Special Projects Staff, Staff Scientists, Students, Visiting Researchers, Visiting Scientists, Volunteers

アメリカ自然史博物館は市民がお金を出し合って設立された民間の施設である。土地建物はニューヨーク市の所有で予算の一部も市が拠出しているので日本で言う公設民営に近いが、設置者は市ではない。

Mission Statement & History | American Museum of Natural History <https://www.amnh.org/about>

スミソニアン研究機構の米国国立自然史博物館の職員（ワシントンDC）【（ ）は2024年の数字、同一は省略】

古生物部門 Department of Paleobiology <https://naturalhistory.si.edu/research/paleobiology/staff>

管理部門2（3）、資料部門9（8）【うち1人は管理兼務】、研究部門12、連携研究部門15（17）。研究部門は全員がcuratorを名乗る、管理と資料部門にはいない。

魚類部門 Department of Vertebrate Zoology division of Fishes <https://naturalhistory.si.edu/research/vertebrate-zoology/fishes/staff>

管理部門2、資料部門6（7）【うち1人は管理兼務】、研究部門4（5）、駐在スタッフ8（9）。研究部門のうちNOAA（アメリカ海洋大気庁）からの出向者2人を除いた残り2人がcurator。

なお、スミソニアン研究機構は、アメリカ合衆国の国立自然史博物館 National Museum of Natural History (NNHM)や航空宇宙博物館 National Air and Space Museum (NASM)、国立アメリカ歴史博物館 National Museum of American History (NMAH)などを擁【よう】している。英国人の寄付金で設立された機関であるが、博物館の名称が示すとおり国立（連邦立）の機関。予算承認には議会上院の承認が必要。

キュレーターは学芸部長や部門長と言われることがあるが、米国自然史博物館では古生物学のなかの細分化された部門長という用法である。日本の博物館でもおなじ使い方をしている。

アラスカ州立博物館の職員録。

アメリカの飛び地、アラスカ州の博物館で州都のジュノー Juneau にある本館と東南部のシトカ Sitka の分館にあたるシェルドンジャクソン博物館 Sheldon Jackson Museum からなる。学芸員の肩書きは資料分門では curator of collections を名乗り、展示部門には curator of exhibition という人がいる。いずれも学術分野や専門とする学問名称ではない。これら名称は日本では見かけない仕事範囲を意味している。

職員録 Staff | Alaska State Museums curator of collection <https://museums.alaska.gov/staff.html>